

学部生として入学し、様々なオリエンテーションを経て、2年次に関心のある専門領域に応じて、「国際経済学科」「応用経済学科」のうち1学科を選択する。

・徹底した少人数教育による個性の尊重

経済学部における学生に対する教員比率は非常に高く、一人ひとりを大切にせる教育を重視している。特に4年間を通じて開講されるゼミナールでは、学生数10人前後の真の少人数教育を実施する。「研究演習」は2年間継続したゼミナールで、4年次には大学生生活の集大成ともいえる卒業論文の作成を行う。

・大学院までの一貫教育

学部の成績優秀者は4年目で大学院に進学できる。

(学科)

経済学部は国際経済学科と応用経済学科の2学科で編成されており、2年次からどちらかの学科に所属することになっている。

a. 国際経済学科

- ・経済学の基本的知識と世界経済を分析する確かな分析手法を身につけ、新しい時代を切り開いていくことのできる国際的なエコノミストの育成を目指す。
- ・世界の国々・地域の経済的分析だけでなく、歴史・文化・制度等の多様な側面から社会の実態を学ぶことにより、国際理解を深め、国際的教養と国際的視野を持ち、グローバルに活躍できる人材の育成を目指す。
- ・英語をはじめ中国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語等の語学力を基礎とした国際コミュニケーション能力に秀でた人材の育成を目指す。

b. 応用経済学科

- ・情報化、少子高齢化、そして地球環境問題といった社会の変容に対応して、「真の豊かさ」、「生活の質」とは何か、それをどう推計するかなどについて探求する。
- ・「地域」「環境」「公共」「情報」の各分野を体系的・総合的に学べるように履修上で工夫し、新しい時代に必要とされる新たな視点や分析能力をもった即応力のある人材の育成を目指す。
- ・混迷を深める現代社会では、より広い視野に立った高度な分析力をもつ人材が必要とされており、応用経済学科では、理論と現実のバランスを重視しながら、社会に対するしつかりとした視点を養い、問題解決のための政策立案力を養うことを目指す。

## c. 大学院経済学研究科—経済学専攻

約35名の充実した教授陣が、ミクロ経済学やマクロ経済学、数理、計量、統計、金融、財政などの経済学の基幹的科目はもとより、政策、国際、開発、歴史、地域、中国などの国際地域、情報などの分野の40を超える幅広い科目を、最先端の内容で提供している。

研究指導は、マン・ツー・マンの体制を維持し、所定の水準を満たす研究論文を提供した場合に、修士号あるいは博士号を授与している。

外国人に対しては特別の入試を行っており、年々入学者が増えている。

修士課程の夜間主コースは、働きながら学ぶ人のためのコースで、神戸三宮の駅ビルで夜間に講義を行っている。全員に修士論文を書くことを要求し、博士後期課程に進学することも可能である。

当研究科は、伝統的に大学教員などの研究者の養成を主要な役割としてきた。今でも昼間の修士課程修了者の多くは、博士後期課程に進学している。しかし経済学は大学だけのものではないので、社会の現場で、経済学の専門知識を生かせる人材の育成も本研究科のねらいのひとつである。

## ②経営学部及び大学院

## (教育理念)

経営学部では、組織経営学科と事業創造学科の2学科を設置しており、環境変化に対して適応的に事業活動を決定、遂行していく「戦略経営」の考え方を教育・研究上の理念としている。そして組織経営学科は、複雑多様な環境変化に対し、個々の経営組織が種々の利害関係者の競争行動を考慮に入れて行う戦略的意思決定の意義やその方法、さらには種々の環境分析の方法を教育研究対象としている。また事業創造学科は、種々の事業創造(起業)を地域社会との関わりも考慮に入れながら経営学的な視点からアプローチし、新たな領域を切り開いていく起業人の育成を目指している。

## (特色)

## ・高度専門人の育成

専門科目を重視した研究・教育を推進しており、経営に関する積極的な動機付け教育を行い、専門教育と教養教育を幅広く奥深く、かつ体系的に修得できるカリキュラム体制を整え、社会の要請に沿った真の高度専門人の育成を目指している。

## ・教育体系の総合化

コーステーマに沿って編成されていくつものコアとなる専門科目を軸に、関連分野の専門科目や一定の教養科目を体系的に履修できるような専門分野横断型のコース制を展開し、経営の専門的知識と幅広い教養を身につけた人材を育てる。

・ESP (English for Specific Purposes) の導入

より実践的な語学教育を重視した外国語教育に取り組み、ビジネス関係の語学教材 (ESP) などを取り入れ、学生の語学能力の上達に力を入れるとともに、TOEIC など、これからのビジネスに必要な語学教育も幅広く履修させる。

・ゼミ教育の重視

神戸商科大学時代からの伝統である「少人数教育」、「ゼミナール教育」を重視したカリキュラム編成を推進しており、基礎的な知識を学ぶ「基礎ゼミナール」から、自分の求める専門知識の深化を目指した「卒業論文作成」まで、4年間をしっかりとサポートする。

・コース制の採用とゼミ教育

専門知識はもちろん、関連する分野の知識が身につく幅広いコースを設定するとともに、経営学部・経済学部、両学部にあわせて横断的に学習できる「法学プログラム」を設け、企業社会で起こる多様な法的問題の処理能力を学ばせる。

・5年一貫教育の実施

勉学意欲のある学生に対しては、学部の3年間で卒業要件に必要な学位を修得し、卒業する早期卒業を認め、さらに会計研究科や経営学研究科に進学して、専門的な知識を習得する「5年一貫教育」を実施している。

(学科)

経営学部には、組織経営学科と事業創造学科の2学科が設けられている。それぞれの特色は次のように説明されている。

a. 組織経営学科は、経営組織をめぐる環境変化に対応できる人材の育成を目指しており、グローバル・ビジネスを学ぶ「戦略マネジメント」コース、会計専門職大学院に直結した「アカウンタビリティ」コース、情報化時代に即応する「経営システム科学」コースで組織されている。

・戦略マネジメントコース

このコースでは、企業をはじめとする組織体の経営戦略やマネジメントの理論および実際を究明する科目と、国際的な文化・政治・経済環境に関する理論と実際を究明する科目を同時に学習することを通じて、国際的な経営環境のもとで、戦略的、組織的、かつ主体的に意思決定し実践できる、社会からの高いニーズに応えられる人材を育成することを目的にしている。

・アカウンタビリティコース

このコースでは、企業や自治体などの報告書が、どのような考え方にもとづいて作成されるのか、また、どのような基準により作成されるのか、そしてそれをどのように見たらよいのかについての学習をすることを目的にしている。

・経営システム科学コース

このコースでは、経営と深いかかわりをもつ分野を対象として、手法と方法論（システム科学的アプローチ）を核とした教育を行い、それを現実のマネジメントに結びつけることができる実践能力を養成すること。高度情報化時代にあって、最もニーズの高い人材を育成することを目的にしている。

- b. 事業創造学科の特色は、21世紀を担う、新たな事業創造を目指す「起業人」を育成することを目指しており、ベンチャー企業を目指した「事業創造（ベンチャー）」コースと事業創造環境の整備を目的とした「事業支援（マーケットアナリシス）」コースで組織されている。

・事業創造（ベンチャー）コース

このコースでは、自らも挑戦の意欲をもって、新時代の開拓者と期待されるベンチャー人材の育成を目的にしている。ベンチャーと、市場の創造と獲得、管理のための政策と行動を研究課題とするマーケティング（特に戦略マーケティング）を結びつけてこのコースで学ぶことにより、独立自営の経営者ばかりではなく、戦略経営の事業リーダー、NPOの参画者などになりうる人材の育成も行う。

・事業支援（マーケットアナリシス）コース

このコースは、マーケット・アナリシスを中心とする事業支援に関する基礎的知識の修得を図ることを目的にしている。ベンチャーそのものが成功するか否かは、それに対してどのような事業支援が得られるのかにも大いに依存している。例えば、的確な市場分析、産業・経済の動向についての知識、人材の確保・育成の知識、資金調達の方法、法的手続きに関する知識などがなければ、事業そのものが立ち上がらなかったり、立ち上がったとしても直ぐに潰されることになったりと、困難がつきまとうことは必ずであり、そうした事業創造をアシストする人材の育成を行う。

c. 大学院経営学研究科—経営学専攻

本研究科の経営学専攻は、広義の経営に関する多様な学問領域を含んでおり、経営学・会計学・商学（経営法学を含む）・経営科学の4分野から構成されている。博士前期課程では、企業経営をめぐる諸問題をグローバルな視点から考察し、戦略論・組織論・管理論・会計学・経営科学などの諸側面から研究を深めつつ、理論と実践の双方において深い洞察力を備えた人材を育成している。一方、博士後期課程では、経営学・会計学・商学・経営

科学に関する専門知識を基礎として、各分野別の個別研究指導により、独創的な研究成果の達成を促している。また、博士後期課程では、各分野の専門研究者を育成するだけでなく、深い倫理性・道徳性に裏打ちされた「高度専門職業人」の育成も行っている。本研究科では、平成12年(2000年)より、社会人のためのビジネス専門教育を目的とした「夜間主コース」(通称MBAコース)を開設した。また、本研究科では、大学院への進学にあたって、大学の学部3年修了時からの5年一貫教育の制度を設けている。

d. 大学院会計研究科—会計専門職専攻

兵庫県立大学は、西日本の国公立で初めてとなる会計専門職大学院(アカウンティングスクール)を平成19年4月に開設した。本会計専門職大学院の目的は、高い資質・職業倫理・専門的能力に加えて、幅広い見識・思考能力・判断能力・国際的視野・指導力などの高度で専門的な職業能力を有する「会計プロフェッション」を育成することにある。具体的には「会計監査の担い手としての会計プロフェッション」、「企業を中心とする民間部門における専門的な実務の担い手としての会計プロフェッション」、「公官庁等の公的部門などにおける専門的な実務の担い手としての会計プロフェッション」の育成を目指している。

## (4) 入学試験の状況 (平成19年度)

## a. 学部

	学部学科名	募集定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願率 B/A	合格率 D/C
一般選抜分	経済学部	155	1,077	594	10 (5) 230 (54)	5 176	% 706.5	% 39.3
	組織経営学科	97	356	331	10 (4) 141 (35)	6 106	391.8	42.7
	事業創造学科	80	332	304	6 (1) 108 (31)	5 77	433.8	35.8
	経営学部 計	177	688	635	16 (5) 249 (66)	11 183	410.7	39.4
推薦入学分	経済学部	40	106	106	39	39	% 265.0	% 36.8
	組織経営学科	33	66	66	35	35	200.0	53.0
	事業創造学科	15	28	27	15	15	186.7	55.6
	経営学部 計	48	94	93	50	50	195.8	53.8
AO入試分	経済学部	5	35	35	5	5	% 700.0	% 14.3
	組織経営学科	-	-	-	-	-	-	-
	事業創造学科	5	43	43	7	7	860.0	16.3
	経営学科 計	5	43	43	7	7	860.0	16.3

- 注 1. 合格者数欄の () 内書きは、入学辞退者数を記載した。  
2. 上段は、外国人特別学生を外数で記載した。

b. 大学院

研究科名			募集定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願率 B/A	合格率 D/C	
大 学 院	博士前期課程	経済学研究科	20	14	13	(4) 10	6	70.0%	76.9%	
		経営学研究科	27	13	13	(3) 10	7	48.2	76.9	
		計	47	27	26	(7) 20	13	57.4	76.9	
	博士後期課程	経済学研究科	5	2	2	2	2	40.0	100.0	
		経営学研究科	6	4	4	2	2	66.7	50.0	
		計	11	6	6	4	4	54.5	66.7	
	外国人	博士前期課程	経済学研究科		10	10	(2) 4	2	-	40.0
			経営学研究科		10	10	(2) 4	2	-	40.0
			計		20	20	(4) 8	4	-	40.0
		博士後期課程	経済学研究科		6	5	4	4	-	80.0
			経営学研究科		1	1	1	1	-	100.0
			計		7	6	5	5	-	83.3
合 計			58	60	58	(11) 37	26	-	63.8	
会計大学院	推薦	会計研究科	20	32	32	25	25	160.0	78.1	
	一般選抜	会計研究科	20	34	33	(1) 18	17	170.0	54.5	
合 計			40	66	65	(1) 43	42	165.0	66.2	

(注) 合格者数D欄に入学辞退者数を( )内書きした。

(5) 卒業生の就職・進学状況 (平成19年3月卒業)

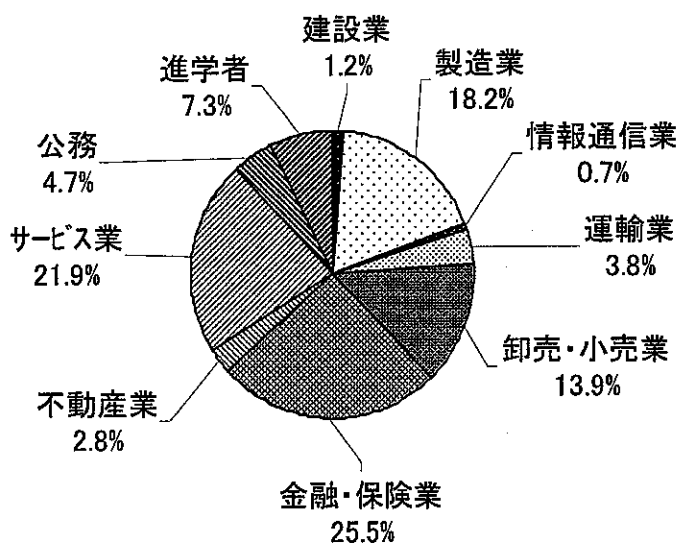
①学部 (神戸商科大学の卒業生)

区 分		性 別	男	女	計
就 職	志 望 者	A	230	175	405
	就 職 者		223	170	393
	就 職 率	%	97.0	97.1	97.0
	卒業生に対する 就職志望者の割合	%	81.3	85.8	83.2
進 学	志 望 者	B	28	21	49
	進 学 者		22	20	42
	進 学 率	%	78.6	95.2	85.7
	卒業生に対する 進学志望者の割合	%	9.9	10.3	10.1
就職進学とも に志望しな かった者	自家営業に 従事するため				
	在学中に就職したため				
	そ の 他		25	8	33
	計	C	25	8	33
就職進学ともに志望した者		D			
卒業生数		A+B+C-D	283	204	487

(注) 平成19年3月卒業生数には、中間卒業生5名及び県立大学卒業生18名を含む。

(平成19年4月1日現在)

経済学部 経営学部





(主な就職先)

経済学部 経営学部

大和ハウス工業  
 積水ハウス  
 旭化成ホームズ  
 日立プラント建設  
 住友林業  
 大鉄工業  
 セキスイハイム  
 穴吹ハウジングサービス  
 YKK AP  
 長谷工エアーマスター  
 阪神住建  
 武田薬品工業  
 小野薬品工業  
 持田製薬  
 小林製薬  
 中外製薬  
 ノエビア  
 マックスファクター  
 メナード  
 日本ペイント  
 ヒーテック  
 サカタインクス  
 関西熱化学  
 東陶機器  
 資生堂  
 丸一鋼管  
 ヤマトスチール  
 東洋ゴム  
 島文エンジニアリング  
 日本軽金属  
 日本ソフック  
 グンゼ  
 帝国電機製作所  
 ニッコー  
 日本スピンドル製造  
 ミカド  
 タカラスタンダード  
 ノーリツ  
 日本毛織  
 イズム  
 明石被服興業  
 ナルミヤインターナショナル  
 ナカバヤシ  
 ミズノ  
 三ツ星ベルト  
 ユーシー産業  
 スターライト工業  
 大塚電子  
 コスメック  
 今治造船  
 富士通テン  
 ダイハツ工業  
 スズキ  
 音戸工作所  
 川崎重工業  
 サンデン  
 ナブテスコ  
 日本ケーブルシステム  
 松下電工  
 シスメックス  
 西日本旅客鉄道  
 近鉄エクスプレス  
 神姫バス  
 近鉄不動産  
 住友不動産販売  
 凸版印刷

上組  
 川西倉庫  
 神明  
 JTB  
 キャセイ関西ターミナル  
 全日空運輸  
 JALスカイ関西  
 阪神エアーカーゴ  
 アートコーポレーション  
 JALナビア大阪  
 エイチ・アイ・エス  
 トヨタカローラ滋賀  
 岡山木村屋  
 サンブラザコンタクトレンズ  
 ナガタ薬品  
 日興商会  
 日本医療開発  
 セブンイレブン・ジャパン  
 総合警備保障  
 キーエンス  
 西日本新聞社  
 国際企画  
 大伸社  
 伊藤園  
 エスケー食品  
 かね徳  
 ユーハイム  
 松田食品工業  
 新生電子  
 TOA  
 日本電池  
 東京エレクトロン  
 ダイヘン  
 ホシデン  
 ブラックス  
 関西電力  
 NTTドコモ関西  
 ソフトバンクBB  
 ジンテック  
 西日本電信電話  
 岩谷産業  
 NI 帝人商事  
 アシックス商事  
 内田洋行  
 丸紅  
 JFE商事  
 ミドリ電化  
 トラスコ中山  
 兵庫リコー  
 関西アーバン銀行  
 りそな銀行  
 但馬銀行  
 日本銀行  
 みなと銀行  
 三井住友銀行  
 三菱東京UFJ銀行  
 池田銀行  
 伊予銀行  
 四国銀行  
 京都銀行  
 中国銀行  
 鳥取銀行  
 泉州銀行  
 北陸銀行  
 住友信託銀行

みずほファイナンシャルグループ  
 日興コーディアル証券  
 大和証券  
 岡三証券  
 SMBCフレンド証券  
 西友商事  
 第一商品  
 タイコム証券  
 東京海上日動火災保険  
 朝日生命保険  
 三井生命保険  
 住友生命保険  
 日本生命保険  
 第一生命保険  
 明治安田生命保険  
 損害保険ジャパン  
 淡路信用金庫  
 日新信用金庫  
 神戸信用金庫  
 尼崎信用金庫  
 但陽信用金庫  
 播州信用金庫  
 中兵庫信用金庫  
 兵庫県信用組合  
 オリックス  
 日本郵政公社  
 長野県酒類販売  
 島根県信用農業協同組合連合会  
 兵庫県信用農業協同組合連合会  
 兵庫県農業共済組合連合会  
 国民生活金融公庫  
 商工組合中央金庫  
 兵庫県商工会連合会  
 農協観光  
 トランス・コスモス  
 ソフトウェア興業  
 東京リーガルマインド  
 ヤマトシステム開発  
 松下システムソフト  
 さくらケーシーエス  
 富士通ビジネスシステム  
 野村総合研究所  
 オージス総研  
 川鉄情報システム  
 第一阪急ホテル  
 日本ケイテム  
 オービック  
 八木通商  
 清原  
 松山大学  
 兵庫医科大学  
 中央青山監査法人  
 大田花き  
 あずさ監査法人  
 松田労務管理事務所  
 兵庫県予防医学協会  
 兵庫県  
 大阪地方検察庁  
 姫路市役所  
 加東市役所  
 小野市役所  
 淡路市役所  
 兵庫県警察本部  
 千葉県警察本部  
 姫路商業高等学校  
 加古川市消防局

## ②神戸商科大学大学院

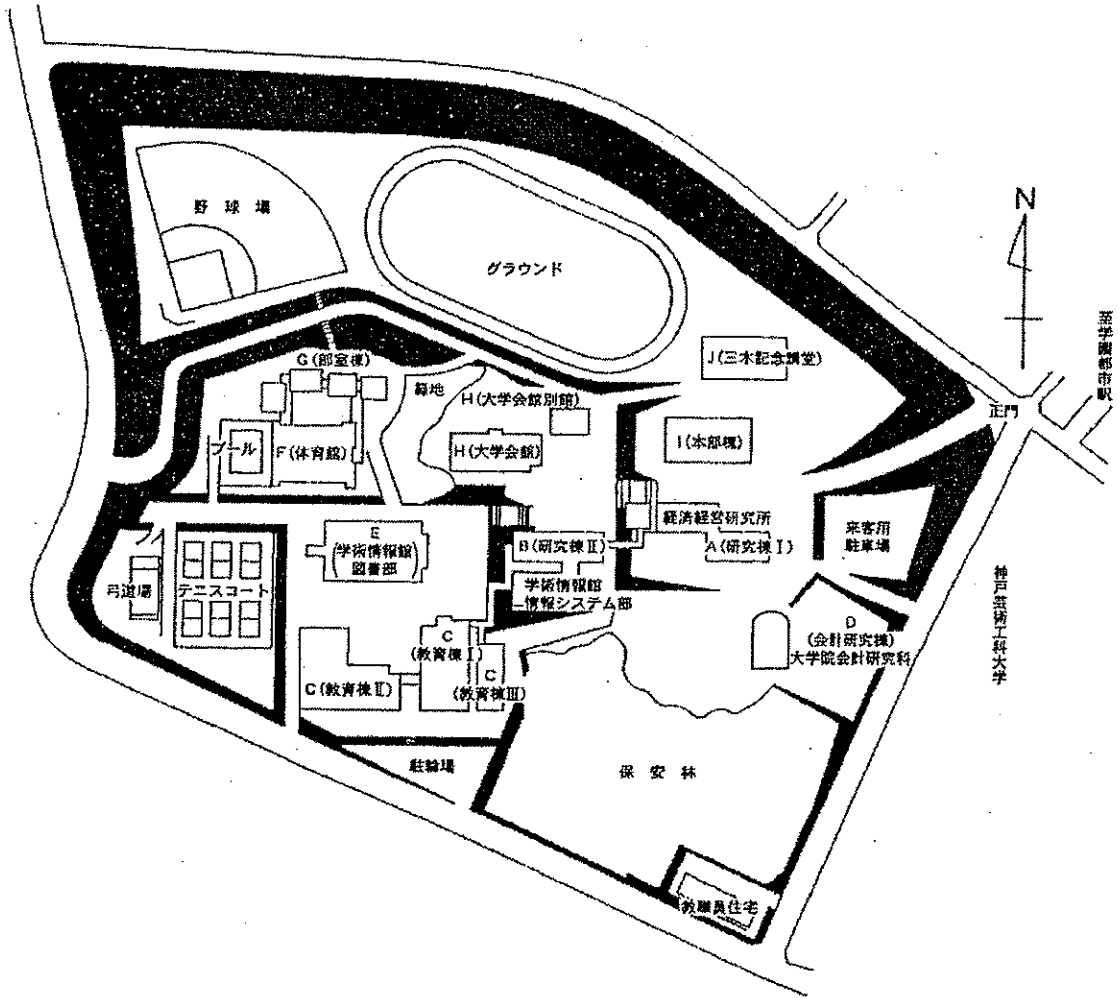
区 分		性 別	男		女		計
			博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	
就 職	志 望 者	A	4	6	4		14
	就 職 者		2	6	2		10
	就 職 率	%	50.0	100.0	50.0		71.4
	卒業生に対する 就職志望者の割合	%	18.2	85.7	36.4		32.6
進 学	志 望 者	B	8		3		11
	進 学 者		8		3		11
	進 学 率	%	100.0		100.0		100.0
	卒業生に対する 進学志望者の割合	%	36.4		27.3		25.6
就職進学ともに志望 しなかった者	自家営業に 従事するため						
	在学中に就職したため						
	そ の 他	C	10	1	4	3	18
	計		10	1	4	3	18
就職進学ともに志望した者		D					
卒業生数		A+B+C-D	22	7	11	3	43

(注) 平成19年3月卒業生数には、中間卒業生1名及び単位取得退学者5名を含む。

## 就職者の内訳 (平成19年3月)

区 分		性 別	男			女			計
			博士前期課程	博士後期課程	小計	博士前期課程	博士後期課程	小計	
卸 売 ・ 小 売 業			1		1	1		1	2
サ ー ビ ス 業				3	3	1		1	4
そ の 他			1	3	4				4
合 計			2	6	8	2		2	10

(6) 神戸学園都市キャンパス構内配置図



### 3. 姫路書写キャンパス

姫路書写キャンパスの所在地は姫路市書写 2167 である。

当キャンパスには工学部と大学院の工学研究科が置かれているほか、姫路工業大学の工学部、大学院が共存するかたちになっており、教職員も2つの大学の職務を兼務している。なお、当キャンパスでは、工学部の学生と共に、姫路新在家キャンパスの環境人間学部及び播磨科学公園都市キャンパスの理学部の全学共通教育も実施しており、全学共通教育における西地区の拠点となっている。工学部及び大学院の工学研究科の概要は次のとおりである。

#### (1) 学生の状況

下記の学生数は平成19年5月1日現在の状況であり、姫路工業大学の工学部が並存していることから、5回生以上の学生は姫路工業大学の学科に属し、1~4回生は県立大学の工学部に属している。

#### ① 学部

区 分		定員	性別	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生以上	計
学科名									
兵庫県立大学	電子情報電気工学科	126	男	124	115	122	130		491
			女	6	9	8	11		34
			計	130	124	130	141		525
	機械システム工学科	126	男	123	124	130	128		505
			女	5	4	1	9		19
			計	128	128	131	137		524
	応用物質化学科	100	男	87	80	89	97		353
			女	20	18	14	16		68
			計	107	98	103	113		421
姫路工業大学	電気工学科	45	男					13	13
			女					0	0
			計					13	13
	機械工学科	45	男					10	10
			女					0	0
			計					10	10
	応用化学科	50	男					7	7
			女					0	0
			計					7	7
	産業機械工学科	45	男					13	13
			女					0	0
			計					13	13
電子工学科	45	男					18	18	
		女					1	1	
		計					19	19	
材料工学科	50	男					11	11	
		女					0	0	
		計					11	11	

機械知能工学科	36	男					10	10
		女					1	1
		計					11	11
情報工学科	36	男					10	10
		女					0	0
		計					10	10
工 学 部 計		男	334	319	341	355	92	1,441
		女	31	31	23	36	2	123
		計	365	350	364	391	94	1,564

②大学院工学研究科

区 分		定員	性別	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生以上	計
課程	専攻名							
博士前期課程	電気系工学専攻	35	男	45	41	1	0	87
			女	1	1	0	0	2
			計	46	42	1	0	89
	機械系工学専攻	35	男	60	58	2	1	121
			女	0	2	0	0	2
			計	60	60	2	1	123
	物質系工学専攻	30	男	48	43	0	0	91
			女	8	6	0	0	14
			計	56	49	0	0	105
	計	100	男	153	142	3	1	299
			女	9	9	0	0	18
			計	162	151	3	1	317
博士後期課程	電気系工学専攻	9	男	3	2	1	3	9
			女	0	0	0	0	0
			計	3	2	1	3	9
	機械系工学専攻	9	男	2	3	2	2	9
			女	0	0	0	0	0
			計	2	3	2	2	9
	物質系工学専攻	7	男	4	4	1	4	13
			女	0	0	0	0	0
			計	4	4	1	4	13
	計	25	男	9	9	4	9	31
			女	0	0	0	0	0
			計	9	9	4	9	31
合 計	125	男	162	151	7	10	330	
		女	9	9	0	0	18	
		計	171	160	7	10	348	

## (2) 教職員の状況

## a. 教員の状況（平成19年5月1日現在）

教員は全て工学研究科に属し、学部の教員を兼務している。

教 員	115名 (教授41、准教授42、講師2、助教29、助手1)
非常勤講師	90
計	<u>205</u>

## b. 事務部職員の状況（平成19年3月31日現在）

	企画調整課	経理課	教務課	学生課	学術情報課	工作課	計
事務職員	6	4	7	6	7	2	32
技能労務職等	3	4			1	10	18
臨時任用職員	1	3		1			5
非常勤嘱託員	8	2	4	2	1	2	19
計	18	13	11	9	9	14	74

## (3) 教育理念、特色と学科等

## ①工学部

## (教育理念)

高い倫理観の涵養と異文化理解の深化、グローバル・コミュニケーション能力の向上を目指した教育に加えて、徹底した工学専門基礎教育の上に高度な専門教育と研究指導を行い、次のような専門技術者・研究者を育成する。

- ・幅広い基礎学力に裏付けされた論理的思考力と判断力を備え、問題提起や活発なアイデア提案を行うことのできる人材。
- ・自然と人間の営みに対する高い倫理観の下に、地域や地球規模での環境問題にも正しく対処しながら技術開発を実行できる人材。
- ・異文化と協調して広く国際社会で活躍でき、かつ地域社会にも貢献できる人材。
- ・専門学科教員と密接に接触できる正課教育外制度（パイロットゼミ）を通して、学習に対する主体性と豊かな感性を養い、柔軟な発想と個性豊かな、独創力を発揮できる人材。

## (特色)

- ・基礎学問からハード・ソフトの「ものづくり」や製造技術、高度情報化社会を支える先端科学技術まで幅広い教育と研究を実践している。

- ・1年生には全教員が数名ずつを担当する「パイロットゼミ」を設け、フレッシュマン教育の充実に努めている。また、「キャリアデザインガイダンス」や「インターンシップ」などを通じ、学年進行とともに学生達の主体的なキャリア形成を目指している。
- ・就職担当教授を中心に就職先の開拓から、推薦、就職決定まで親身になって世話をしている。毎年ほぼ100%の就職率を誇っている。
- ・アメリカ、オーストラリア、中国などの提携大学を交流訪問したり、交換留学生、語学研修生として在学したりすることができる。また、留学生も積極的に受け入れている。

#### (学科)

工学部には電子情報電気工学科、機械システム工学科、応用物質科学科の3学科が設けられている。それぞれの学科の特色は次のとおりである。

##### a. 電子情報電気工学科

本学科では、工学基礎教育の重視と専門領域間の融合を図った、次の3コース制の教育・研究システムを採り入れ、視野の広い人材育成を目指している。これにより、電気系技術を支える基礎を幅広く習得し、多種多様な職種に対応できる専門知識や実践的技術を身につけた人材の育成が可能となる。

###### ・電力システムコース

本コースでは、電力・エネルギーに関連した分野の技術に精通した技術者・研究者の養成を目的としている。

###### ・電子素子・回路コース

本コースではエレクトロニクスの基礎とその発展を支える電子デバイスと回路システムに関する知識や技術を学び、高度情報化社会を支え、最先端技術を担うことのできる技術者・研究者の養成を目的としている。

###### ・情報システムコース

急速に進歩している情報システム、とりわけプログラミング、ネットワーク、オペレーティングシステムなどのソフトウェア技術と、計算機アーキテクチャ、情報回路などのハードウェア技術を、講義・実験・実習を通じて体系的に学習し、電気系のあらゆる分野・職種に対応できる技術者の育成を目的としている。

##### b. 機械システム工学科

本学科では、「機械工学」「環境エネルギー」「機械知能」の3コース制の教育体制を採り、人と機械をキーワードに持つ新領域創成に向けた教育展開を目指している。本学科では、工学の基礎科目や実験・実習・演習を強化・充実させ、入学当初から工学に

対する興味、関心を啓発し、自分の適性に合った専門コースが選択できるようにしている。

・機械工学コース

あらゆる産業基盤を支える基幹科目の材料力学、流体力学、熱力学、ものづくりに不可欠な機械設計、設計製図、機械工作、および機械力学、計測工学、伝熱工学、動力工学等を加えた教育を行い、人にやさしい21世紀のヒューマンエンジニアリングの担い手として、次世代のニーズに柔軟に応えられる機械技術者の育成を目指している。

・環境エネルギーコース

環境保全や省エネルギープロセス開発に有用な能力を身につけさせるために、機械基礎科目に加え、環境工学、微粒子工学、エネルギー変換、新素材開発、反応工学、熱および物質移動論等を加えた教育を行い、環境にやさしい省エネルギーを目指した生産プロセス開発の能力をもつ機械技術者の育成を目指している。

・機械知能コース

高性能ロボットやマイクロ・ナノマシンなどの知能集積システムの研究開発に向けて、これらの実現に必要とされる超精密加工、薄膜形成、力学計測、力学制御、原子・分子操作などの各要素技術の研究を通じて学生の指導育成を行い、常にフロンティアスピリットをもち続けながら、知的でヒューマンフレンドリーな機械を生み出すための新たな可能性に挑戦できる機械系技術者の育成を目指している。

c. 応用物質科学科

創造性・独創性・国際性豊かな21世紀型の物質工学に関する技術者・研究者の養成を目指し、物質創製の基礎科目である有機化学・無機化学・物理化学を重視する教育体系のもとで学習することができる。

1、2年次では、物理、化学、材料、バイオの各分野がそれぞれ有機的に連結する充実した基礎カリキュラムのもとで学び、高学年では、特定の分野に深い造詣をもつ技術者となるため、「合成・バイオ」、「物質・エネルギー」、「マテリアル・物性」の3つのコースから希望するコースに分かれ、コース別の専門教育を履修することにより、課題探求型能力を身につけることができる。

・合成・バイオコース

有機合成化学、高分子化学、分子設計学、生物化学などを実験や演習を通して体系的に教育し、さらにこれら基礎科目に加えて、応用展開科目に関連した機能性有機材料やバイオテクノロジーなどの専門分野を学習し、物質合成やバイオテクノロジーおよびその関連分野の技術者・研究者の養成を目的とする。

・物質・エネルギーコース



基礎科目である物理、化学、物理化学を演習や実験を通して指導し、さらに、各種物質の製造プロセスや各種電池などのエネルギー材料を含む応用物理化学の広い分野を系統的に学習し、新しい機能を有する物質やエネルギー関連材料の創製および関連分野にたずさわる人材の育成を目的とする。

・マテリアル・物性コース

基礎科目である力学、電磁気学、固体物理、材料組織学、材料強度学等の座学と学生実験、設計製図、工作実習からなる実学を適時配置し効果的な教育を行い、卒業研究は、非鉄金属（アモルファスを含む）、超伝導体、鉄鋼、半導体、ナノ金属材料からなる教育研究分野に配属され、省エネルギー、省資源に繋がる新素材・新プロセス・新素子の開発、地球環境や人体に優しい材料の創製・開発ができる人材の育成を目的とする。

②大学院工学研究科

(教育理念)

本研究科では、第1に、科学技術の分野で創造的、独創的研究を推進し先駆的な情報を発信することにより学術の進展に寄与すること。第2に、学術の基礎を広く深奥に極めかつ高度な専門学識並びに専門領域を横断した学際性を備えた研究者・技術者を育成することを基本としている。

- (1) 博士（前期）課程では、広い分野にわたる工学基礎学識と高度な専門知識を修得し、与えられた課題を的確に研究・解決する能力を身につけた人材、また、各種機器、各種システムの操作・制御・設計等、高度な専門性を有する職業に適応できる能力を備え、かつ高い倫理観と豊かな人間性をもつ人材の育成を目的としている。
- (2) 博士（後期）課程では、高度な専門学識を深く、かつ各専攻を横断した学際領域での工学知識を広く修め、問題の提起と解決能力、すなわち独自に新しい原理の発見や理論を構築する能力並びに基本技術の開発能力を備えた、総合力と創造性に富み、高い倫理観と豊かな人間性をもつ人材の育成を目的としている。

(専攻)

工学研究科では、博士前期・後期課程を電気系工学専攻、機械系工学専攻、物資系工学専攻に編成し、学部・大学院一貫教育を通じて、一層の学際化と国際化に努めている。これら3専攻の概要は次のとおりである。

a. 電気系工学専攻

電気系工学専攻は幅広い電気系学問分野の全てに対応できるよう、密度の濃い基礎知識と高度な専門知識の習得を目標に掲げて以下の4つの部門を設けている。

・電力・エネルギー工学部門

電力の発生と輸送及び電気絶縁システム、導電性高分子・フラーレンなどの先端機能性材料などの研究と教育指導を行う。

・物性・デバイス工学部門

半導体、誘電体、強誘電体、磁性体の電子物性と、これらを用いた電子デバイスの開発、特性評価に関する研究と教育指導を行う。

・回路・システム工学部門

マイクロ波、ミリ波、光波の導波回路・電子回路、光デバイス、半導体回路・集積回路、マイクロマシニングによる超小型回路・システム、最適通信システム、電派吸収・遮断材に関する研究と教育指導を行う。

・電子情報工学部門

電子情報工学の基礎理論、情報通信ネットワーク、計算機言語、ならびに次世代高度情報システムの構築とその応用に関する研究と教育指導を行う。

b. 機械系工学専攻

機械系工学専攻では、機械工学、環境エネルギー工学および機械知能工学の各学問分野を貫く横断的視野に立って、課題を発掘し、解決できる能力を備え、自立して研究を遂行し得る創造性豊かな専門技術者・研究者の育成を目指し、以下3つの部門を設けている。

・機械工学部門

学部教育で修得した機械工学の各専門分野の基礎知識と論理的な解析能力を基礎に、材料・流体・熱の各種力学、機械設計および機械加工など、先端的な機械工学に関する教育・研究を行う。

・環境エネルギー工学部門

材料力学、流体力学、熱力学など機械工学分野と反応工学、高分子工学、科学物理、移動現象など化学工学分野を包括する境界・複合領域における最先端の教育・研究を行う。

・機械知能工学部門

機械工学の基盤の上に、電気電子工学、計測制御工学、計算機工学などを融合したメカトロニクス技術を高度化、インテリジェント化するための基礎研究を主眼とし、最先端技術の教育・研究を行う。

c. 物資系工学専攻

物資系工学専攻では、21世紀における多くの未開拓な学問分野を視野に入れて、「現象に対する革新的な理解」および「新たな現象の創成と制御」に対する知の涵養という理念のもとに研究・教育をすることを旨とし、以下3部門を設けている。

・合成・バイオ部門

基礎有機化学反応の展開による精緻な合成法や分析法を修得し、有機材料、高分子材料並びに生体材料に関わる新規で高機能な物質をデザインし合成できる能力を有する人材を育成するための教育・研究を行う。

・物資・エネルギー部門

物資の持つ巨大な自由度を開拓して、従来なかった新しい機能を持った構造体を創成するための基本原理を修得する。

・マテリアル・物性部門

物質の究極的な性質とその利用法を習得し、その理解のもと、物質の構成要素である原子や分子を組合せ、特殊な機能を持った構造体とするナノテクノロジーに関する創造的人材を養成するための教育・研究を行う。

(4) 入学試験の状況 (平成19年度)

a. 学部

	学科名	募集定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願率 B/A	合格率 D/C
一般選抜分	電子情報電気工学科	93	397	257	127 (26)	101	426.9	49.4
	機械システム工学科	93	490	340	116 (23)	93	526.9	34.1
	応用物質科学科	74	320	220	107 (27)	80	432.4	48.6
	合 計	260	1,207	817	350 (76)	274	464.2	42.8
推薦入学分	電子情報電気工学科	33	41	41	29	29	124.2	70.7
	機械システム工学科	33	53	52	32	32	160.6	61.5
	応用物質科学科	26	27	27	24	24	103.8	88.9
	合 計	92	121	120	85	85	131.5	70.8

- (注) 1. 合格者数欄の ( ) 内書きは、入学辞退者数を記載した。  
2. 上段は、外国人特別学生を外数で記載した。

## b. 大学院

課程	専攻名	募集定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願率 B/A	合格率 D/C
博士前期	電気系工学専攻	35	68	67	54 ( 8)	46	194.3	80.6
	機械系工学専攻	35	73	71	62 ( 3)	59	208.6	87.3
	物質系工学専攻	30	62	61	57 ( 1)	56	206.7	93.4
	計	100	203	199	173 (12)	161	203.0	86.9
博士後期	電気系工学専攻	9	3	3	3	3	33.3	100
	機械系工学専攻	9	2	2	2	2	22.2	100
	物質系工学専攻	7	2	2	2	2	28.6	100
	計	25	7	7	7	7	28.0	100
合計		125	210	206	180 (12)	168	168.0	87.4

- (注) 1. 合格者数欄の ( ) 内書きは、入学辞退者数を記載した。  
2. 上段は、外国人特別学生を外数で記載した。

## (5) 卒業生の就職・進学状況 (平成19年3月卒業)

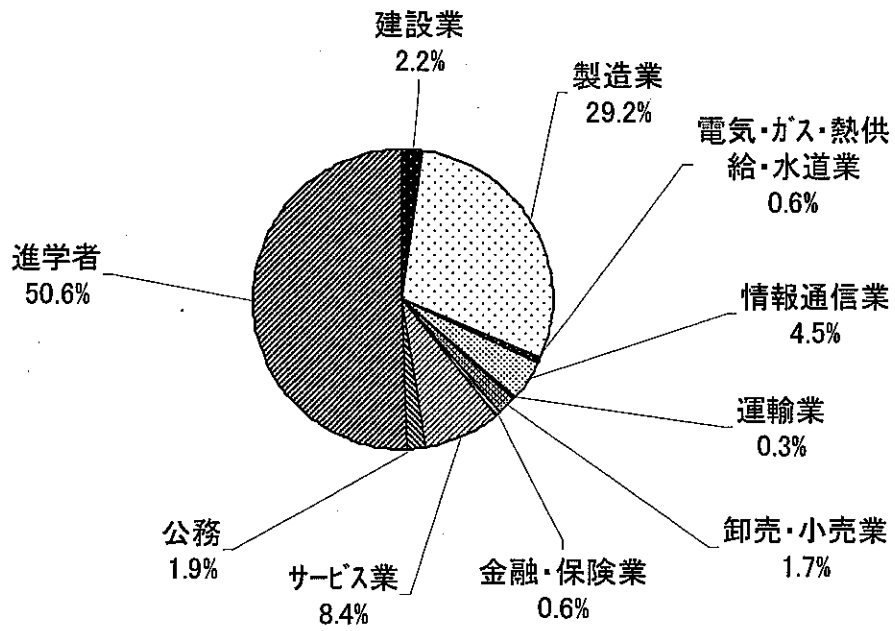
## ①工学部 (姫路工業大学の卒業生)

区分	性別		男	女	計
就職	志望者	A	164	13	177
	就職者		163	13	176
	就職率	%	99.4	100.0	99.4
	卒業生に対する 就職志望者の割合	%	46.3	54.2	46.8
進学	志望者	B	169	11	180
	進学者		169	11	180
	進学率	%	100.0	100.0	100.0
	卒業生に対する 進学志望者の割合	%	47.7	45.8	47.6
就職進学 ともに志望 しなかつた者	自家営業に 従事するため				
	在学中に就職したため				
	その他		21		21
	計	C	21		21

就職進学ともに志望した者	D			
卒業生数	A+B+C-D	354	24	378

(平成19年4月1日現在)

工学部



## (主な就職先)

## 工学部

鹿島建設  
 大林組  
 きんでん  
 高砂熱学工業  
 太平工業  
 帝人  
 グンゼ  
 東リ  
 大日本印刷  
 凸版印刷  
 プリヂェストン  
 山之内製薬  
 花王  
 大日本インキ化学工業  
 ダイセル化学工業  
 鐘淵化学工業  
 住友ベークライト  
 藤本製薬  
 東洋ゴム工業  
 日本触媒  
 住友ゴム工業  
 バンドー化学  
 ショーワ  
 ミツ星ベルト  
 サカタインクス  
 東海ゴム工業  
 関西熱化学  
 青木油脂工業  
 ニチリン  
 ソーラー  
 京都化成工業  
 住友金属工業  
 神戸製鋼所  
 三菱マテリアル  
 トステム  
 INAX  
 日本特殊陶業  
 日本板硝子  
 ヤマトスチール  
 タカラスタンダード  
 山陽特殊製鋼  
 ノーリツ  
 日本電気硝子  
 日亜鋼業  
 神鋼鋼線工業

日立プラント建設  
 クボタ  
 小松製作所  
 森精機製作所  
 ダイキン工業  
 新キャタピラー三菱  
 椿本チェーン  
 コベルコ建機  
 グローリー工業  
 フジテック  
 日工  
 新日本工機  
 富士通  
 東芝  
 日本電気  
 松下電器産業  
 シャープ  
 三菱電機  
 三洋電機  
 京セラ  
 松下電工  
 DXアンテナ  
 村田製作所  
 大日本スクリーン製造  
 西芝電機  
 高速オフセット  
 日東電工  
 住友特殊金属  
 日本電産  
 リンテック  
 ウシオ電機  
 日本電池  
 ニチコン  
 日立メディコ  
 ホシデン  
 セイコーエプソン  
 松下冷蔵  
 ダイヘン  
 福伸電機  
 神鋼電機  
 古野電気  
 日本セラミック  
 富士通テン  
 シスメックス  
 三相電機

日立製作所  
 三菱重工業  
 日産自動車  
 デンソー  
 マツダ  
 本田技研工業  
 川崎重工業  
 石川島播磨工業  
 日立造船  
 ダイハツ工業  
 光洋精工  
 スズキ  
 極東開発工業  
 日本ケーブルシステム  
 アイシン・エアーリ  
 キャノン  
 コニカ  
 ニコン  
 ミノルタ  
 島津製作所  
 アシックス  
 タダノ  
 富士通 LSI テクノロジー  
 松下システムテクノ  
 富士通システムソリューションズ  
 日立情報制御システム  
 NEC システムテクノロジー  
 三菱電機エンジニアリング  
 防衛庁  
 兵庫県警  
 大阪府警  
 岡山県警  
 兵庫県立工業技術センター  
 大阪市立環境科学研究所  
 滋賀県立工業技術センター  
 岡山大学  
 岡山県立大学  
 大阪府教員  
 兵庫県立姫路工業高等学校  
 兵庫県立城北高等学校  
 姫路市役所  
 明石市役所  
 加古川市役所  
 高砂市役所  
 小野市役所  
 大阪市消防局

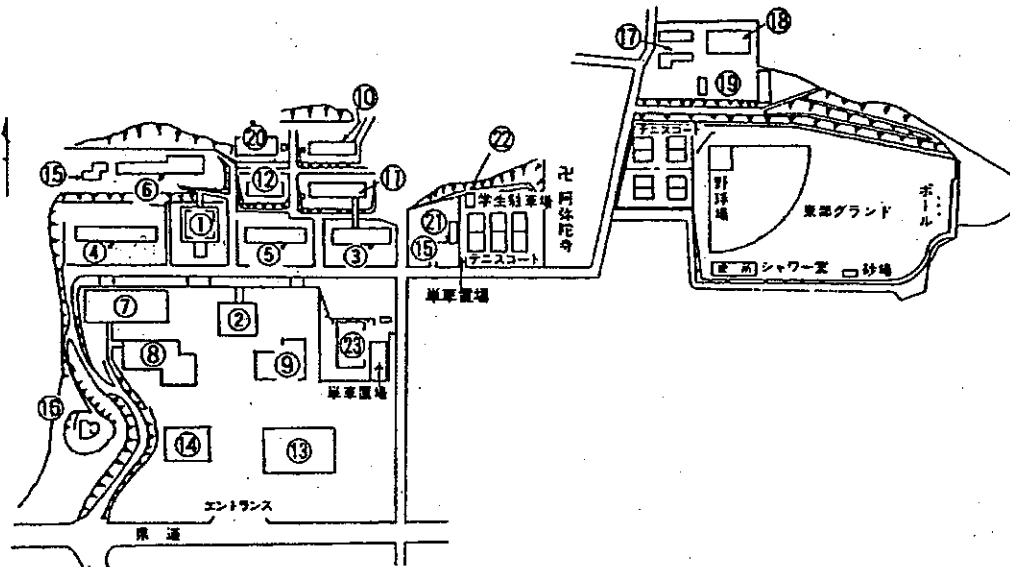
②姫路工業大学大学院

区 分		性 別	男		女		計
			博士前 期課程	博士後 期課程	博士前 期課程	博士後 期課程	
就 職	志 望 者	A	135	14	10	1	160
	就 職 者		135	13	10	1	159
	就 職 率	%	100.0	92.9	100.0	100.0	99.4
	卒業生に対する 就職志望者の割合	%	95.7	100.0	100.0	100.0	99.4
進 学	志 望 者	B	5				5
	進 学 者		5				5
	進 学 率	%	100.0				100.0
	卒業生に対する 進学志望者の割合	%	3.5				3.0
就職進学とも に志望 しなかつた者	自家営業に 従事するため						
	在学中に就職したため						
	そ の 他	C	1				1
	計						
就職進学ともに志望した者		D					
卒業生数		A+B+C-D	141	14	10	1	166

就職者の内訳 (平成19年3月)

区 分	性 別	男			女			計
		博士前 期課程	博士後 期課程	小計	博士前 期課程	博士後 期課程	小計	
製 造 業		120	9	129	8		8	137
電 気・ガ 斯・水 道 業		2		2				2
運 輸 ・ 通 信 業		2		2				2
卸 売 ・ 小 売 業			1	1				1
サ ー ビ ス 業		8		8	1		1	9
公 務		3	3	6		1	1	7
そ の 他					1		1	1
合 計		135	13	148	10	1	11	159

(6) 姫路書写キャンパス構内配置図



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	本館	⑨	7号館 (総合・情報教育館)	⑰	和弓射場
②	姫路書写学術情報館	⑩	機械実習工場 (工作センター)	⑱	プール
③	1号館 (機械・産機)	⑪	機械・産業機械 実験棟	⑲	洋弓場
④	2号館 (電気・電子)	⑫	応化・材料 実験棟	⑳	実験棟
⑤	3号館 (応化・材料)	⑬	体育館	㉑	学生サークル会館
⑥	4号館 (理工共通)	⑭	学生会館	㉒	自動車部車庫
⑦	5号館 (総合教育)	⑮	部室	㉓	旧体育館兼講堂
⑧	6号館 (機械知能・情報)	⑯	書写記念会館		



## 4. 播磨科学公園都市キャンパス

播磨科学公園都市キャンパスの所在地は赤穂郡上郡町光都3丁目2-1である。

当キャンパスには理学部と大学院の物質理学研究科と生命理学研究科が置かれているほか、姫路工業大学の理学部、大学院が並存するかたちになっている。

## (1) 学生の状況

## ① 理学部

下記の学生数は平成19年5月1日現在の状況であり、姫路工業大学の理学部が並存していることから、5回生以上の学生は姫路工業大学に属している。

学科名	区分	定員	性別	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生以上	計
物質科学科	90	男	89	88	55	67	16	315	
		女	21	21	25	19	86		
		計	110	109	80	86	16	401	
生命科学科	85	男	52	49	55	53	4	213	
		女	33	34	37	34	4	142	
		計	85	83	92	87	8	355	
合計	175	男	141	137	110	120	20	528	
		女	54	55	62	53	4	228	
		計	195	192	172	173	24	756	

## ② 大学院 物質理学研究科・生命理学研究科

専攻名	区分	定員	性別	1回生	2回生	3回生	4回生以上	計
博士前期課程	物質科学専攻	32	男	16	30			46
			女	3	4	1		8
			計	19	34	1		54
	生命科学専攻	28	男	21	15	2		38
			女	11	13			24
計			32	28	2		62	
博士後期課程	物質科学専攻	11	男	7	1	6	2	16
			女			1	1	2
			計	7	1	7	3	18
	生命科学専攻	9	男	2	7	9	4	22
			女	2	2	3	4	11
計			4	9	12	8	33	
合計	80	男	46	53	17	6	122	
		女	16	19	5	5	45	
		計	62	72	22	11	167	

## (2) 教職員の状況

教職員は学部と大学院を兼務している。

## a. 教員の状況（平成19年5月1日現在）

	物質理学 研究科	生命理学 研究科	共 通	合 計
教 授	18	14		32
准 教 授	15	14		29
助 教	15	14		29
非常勤講師			20	20
客員教員			4	4
計	48	42	24	114

## b. 事務部職員の状況（平成19年3月31日現在）

	総務課	研究課	学 務 課	学術情報課	合 計
事 務 職 員	7	2	6	3	18
技能労務職等					
臨時的任用職員					
非常勤嘱託員	4	3	3	2	12
計	11	5	9	5	30

## (3) 教育理念、特色と学科等

## ① 理学部

## (教育理念)

進歩し発展する科学と技術の世界で本当に重要な役割を担えるのは、理学の基礎をしっかり理解した真の実力者、過去にとらわれない自由な発想で新しい変化に柔軟に対応できる人たちである。本理学部では、このような先進的研究と将来の科学技術の発展を担う人材を育てることを目的にしている。

## (特色)

- ・基礎科学分野でも、研究が高度化するにつれて異なる分野で得られた知識を統合し、新しい発想で研究を推進することが重要であり、このような学際的な研究成果を取り入れた教育を行う。
- ・次世代技術の基礎を担うために、教員組織が自ら最先端の活発な研究活動を行うことはもちろんのこと、その研究活動の成果を積極的に反映した高度な教育を展開している。
- ・基礎的研究を担う理学系の研究者の不足が深刻であり、その充実が急務となっている。播磨科学公園都市には Spring-8、理化学研究所、日本原子力研究所や本学高度産業科学技術研究所などの優れた研究機関があり、それらと連携して高度な教育プログラムを推進することが可能であることから、最適の立地条件を備えている。

## (学科)

理学部には、物質科学科と生命科学科の2学科が設けられている。それぞれの学科の特色は次のとおりである。

## a. 物質科学科

- ・数学・物理学・化学・生命科学・地学・情報科学などの各分野における基礎教育を基に、量子力学・物性論・電磁気学などの最先端科学技術の教育・研究を推進し、次代の科学技術をリードする知識と技術を広く体系的に学び、新たな技術を生み出す21世紀の科学者の育成をめざしている。
- ・物質のいろいろな性質、すなわち物性を様々な角度から理解し、新たな物質を造り出す基礎を学ぶことを重点に、多岐にわたる専門分野を視野に入れた科目を体系的に学べるよう、従来の学科・分野にとらわれないカリキュラムを配置し、幅広い教育を展開している。
- ・学生一人ひとりの志望・適性などに応じるため、「物性基礎コース」、「物性コース」、「物質コース」の3つの履修コースを設けている。物性を様々な角度から理解し、新たな物質を造り出す基礎的知識から、より専門性の高い知識と技術を幅広く体系的に学べる。

## (履修コース)

3年次から、志望・適性等に応じた多様な選択が可能になるよう、次の3つの履修コースを設けている。

- ・物性基礎コース

物質の持ついろいろな物性を電子・原子レベルで理解し、物性の探索を理論的・実験的に追究する方法を修得することをめざすコースである。原子・分子やその集合体の挙動を理解するために量子力学と統計力学の基礎は不可欠であり、これらの基礎の上に立って、数学や物理学の基礎・応用を学ぶ。

・物性コース

物質の持ついろいろな物性を電子・原子レベルで理解し、実験的に解明する手法を修得することをめざすコースである。物性基礎コースと同様、量子力学・統計力学の基礎の上に立って、現実に私たちが目にする物質の物性を解明するための理論を学ぶ。

・物質コース

物質の持ついろいろな物性を電子・原子レベルで理解し、物質をつくりだす手法を修得することをめざすコースである。内容的には化学的に物質を研究したり合成したりすることに主眼が置かれていて、量子力学・統計力学の基礎の上に立って、化学関連の基礎・応用を学ぶ。

b. 生命科学科

- ・本大学院生命理学研究科との密接な連携をもつ高度な教育研究体制により、21世紀の科学の中心となるバイオ分野の教育・研究において、より専門性の高い知識と技術が修得できる。
- ・「生命現象の分子および細胞レベルでの解明に関する研究と教育」を目的とした本学科では、生命現象の解明に取り組むとともに、生命現象への深い理解と洞察力を身につけた人材の育成を目指している。
- ・生命現象を物理学的あるいは物理化学的手法によって解明する「生体物性」、生命現象を化学的手法によって解明する「生体分子」、生命現象を細胞生理学的手法によって解明する「細胞」の3つのコースを設け、より専門性を深化させた、きめ細やかな教育・研究を行っている。

(履修コース)

3年次から、志望・適性等に応じた多様な選択が可能になるよう、3つの履修コースを設けている。

・生体物性コース

学際的色彩が強いコースで数学、物理学の基礎ならびに科学の諸分野、生化学、生物物理学などを系統的に履修し、生体物質の構造と機能を物理化学的に解析する方法を修得する。

・生体分子コース

生命現象を主として化学的手法で解析し、化学の言葉で理解することを目標とし、そのための準備として、有機化学、無機化学、生化学、遺伝学、細胞構造学などを系統的に履修する。

・細胞コース

細胞の分化、発生と細胞の機能を、主として遺伝学や、細胞生理学的な手法により追究する方法を修得する。遺伝学、細胞生理学、細胞構造学を基盤とした生物的色彩の強いコースである。

②大学院

a. 物質理学研究科 物質科学専攻

(教育理念)

物質理学研究科は、数学、物理学、化学などの一般的分類にとらわれず、物質科学専攻の1専攻を設けることにより、学際的な組織及びカリキュラムを実現し、境界領域において実力の発揮できる研究者と技術者を育成している。

本専攻には、物質の原子的・分子的構造に基礎を置いた物性と反応に関する高度の教育研究を行うために、従来の伝統的な学問分野とは異なる4大講座（物質基礎解析学、物質機能解析学、物質構造制御学、物質反応解析学）が設置されている。物質のもつ物性発現の解明のための物理数学的手法の開拓、物性を最適に発現させる制御、さらに物性を担う物質の設計、創製にわたる教育研究を行い、物質科学の基礎から応用までの有機的関連を理解できる研究者、技術者の育成を目指している。

(研究部門)

・物質基礎解析学部門

本部門では、物質の示す性質を理論的に解き明かす物性基礎理論を学ぶとともに、物性を支配する物質中の電子状態などを、数学的手法を活用し理論的に解明する方法を修得する。

・物質機能解析学部門

本部門では、物質が示す電気、磁気、光学などの性質を、さまざまな実験を通してミクロな観点から理解するとともに、新しい物理現象の探索やその機構を解明する手法を学ぶ。

・物質構造制御学部門

本部門では、物質が結晶構造の違いや、集合状態の違いにより現す多彩な物性をミクロな立場から理解するとともに、物理的、化学的手法でその構造を制御する方法を学ぶ。

・物質反応解析学部門

本部門では、物質変化の基礎をなす化学反応を支配している基本原理を理解する能力を身につけるとともに、新物質の合成や微量生成物を効果的に分析する手法などを学ぶ。

b. 生命理学研究科 生命科学専攻

(教育理念)

生命理学研究科は、生物学、生化学、生物物理学、地学などの一般的分類にとらわれず、生命科学専攻の1専攻を設けることにより、学際的な組織及びカリキュラムを実現し、境界領域において実力の発揮できる研究者と技術者の育成に努めている。

本専攻には生命現象の分子レベル・細胞レベルにおける解明に関する教育研究を行う大講座（生体物質構造解析学、生体物質機能解析学、細胞機能解析学）に加え、生命存続の基盤である地球環境に関する教育研究を行う大講座（地球環境科学）が設置されている。生体物質の構造解析を基礎とし、その分子としての機能及び細胞内における機能発現と制御に関する教育研究とあわせ、生命を宿す場としての地球環境に関する教育研究、さらに実験結果についての数理解析的手法の適用などの教育研究を行い、自然に対する複合的な視点をもった研究者、技術者の育成を目指している。

(研究部門)

・生体物質構造解析学部門

生体物質の分離精製と結晶化、X線、放射光、NMR（核磁気共鳴）などによる立体構造解析を中心に、生体機能を分子レベルで理解する上で基本となる構造解析法の基礎原理とその応用について、教育・研究を行っている。

・生体物質機能解析学部門

種々の生体物質の機能と相互作用の解析を通じて、生命現象を分子レベルで理解することを目指すとともに、それらの異常による疾患の原因解明や新しいバイオ素子の開発など、広い視野から教育・研究を行っている。

・細胞機能解析学部門

生命の単位である細胞の構造と機能を分子レベルで理解することを目指し、個体・器官構築の原理や細胞構成分子の細胞内での機能発現機構について、遺伝子レベルまで遡って教育・研究を行っている。

・地球環境科学部門

地球表層部における物質の分布・構造・移動に関する教育・研究を通じ、水圏・気圏・生物圏・岩石圏の実体や変化、相互作用などを総合的に理解し、広い視野で地球環境問題にも対応できる人材の育成を目指している。